

## 7 授業の実際と考察

### (1) 体育の見方・考え方について～「知る」…足の振り上げ感覚と腕支持感覚に着目する～

活動に入る前に、前時の壁倒立の学習で見付かった課題を共有し、主に足の振り上げ感覚と腕支持感覚に着目させた。

T3：昨日の練習で難しかったことは何でしたか。 下線：見方・考え方  
C5：足を上げるのが難しかった。  
C6：片足しか上がらなかった。  
C7：そうそう。  
T4：今日は、前回できなかった部分のコツを見付けられるように練習していきましょう。  
～Aグループ～  
E1：バーンって足をあげるんだよ。  
F1：かかとが骨折するくらい勢いつけて。  
G1：こんな感じ？  
E2：そうそう。そのまま手に力を入れてバランスとって。  
～Dグループ～  
H1：勢いを付けてバーンとやればいいんだよ。  
I1：どうやって？  
H2：だから、ここで勢いをつけてバーンとやるんだよ。  
I2：それができないの。  
～Cグループ～  
J1：お、すごい。もうちょっと。  
K2：次、頑張ればできるよ。



前時の壁倒立の課題を見付ける子



グループでアドバイスをし合い活動する子

練習時、Aグループでは、壁倒立のコツをアドバイスする姿が見られた (E1, F1)。また、仲間から教えてもらった技のコツを試すことで上達する姿も見られた (G1, E2)。しかし、別のDグループでは、「勢いを付けてバーンとやればいいんだよ。」というアドバイスを受け、具体的にどう動いたら良いのかが伝わらず、技の習得につながっていない姿が見られた (H1・I1・H2・I2)。また、Cグループ内では、「もうちょっと。」「頑張ればできる。」(J1, K2) などといった励ましの言葉掛けが多く、具体的にどのように動けばよいのか動き方のコツを伝え合うことができないグループもあった。技の習得を目指す活動の際には、教師が壁倒立の動きの詳細な過程を徹底的に分析し、その構造を子どもに易しい言葉で説明し、アドバイスの視点を明確にしてから取り組ませる必要があることが分かった。

### (2) 問い返しと話し合い活動の工夫について

#### ～動きのコツを引き出す問い返しとグループでの話し合い活動の設定～

練習の途中、教師が見取った多くの子どもに見られるつまずきを共有した。共有した後に、どうすればできるようになるかと解決策を問うと、「勢いをつければいい。」という子どもの発言があった (C22)。そこで、勢いを付けるための具体的なコツに着目してほしいと思い、「勢いをつけるってどういうこと？」と問い返した。しかし、教師と一人の子ども、一対一の問い返しが続いてしまった (T12・C23・T14・C26)。問い返しをする前に、子どもと壁倒立のつまずきや困り感を共有し、一人一人が同じ問題意識をもった状態で問い返しをする必要があった。

また、教師は各グループをまわり、子ども同士、「できた。」と言っている子どもに対して、「どんなことを意識したらできた？」と問うた (T19)。すると、「**頭の後ろに腕をもってくる感じ。**」と具体的な壁倒立の技のコツを伝える姿が見られた (J21)。そのコツを生かして練習したことで、壁倒立ができるようになった子どももいた (K19・K20)。教師が、それぞれのグループを見取り、技ができた子にどうしてできたのかを問い返すことが、子どもが体育の見方・考え方を働かせて問題解決するために有効な手立てであることが見えてきた。

下線：見方・考え方

T11：足が高く上がらない人が多いんだけど、  
 そういう人はどうすればできるようになる？  
 C22：勢いをつければいい。  
 T12：勢いをつけるってどういうこと？  
 C23：最初から（立っているところから）勢いをつける。  
 T13：他に勢いをつけるってどういうことか言える人はいますか？  
 C24：ねらう。  
 C25：ねらう？  
 T14：ねらうってどういうこと？  
 C26：マットの2本目の線を決めて手を着く。

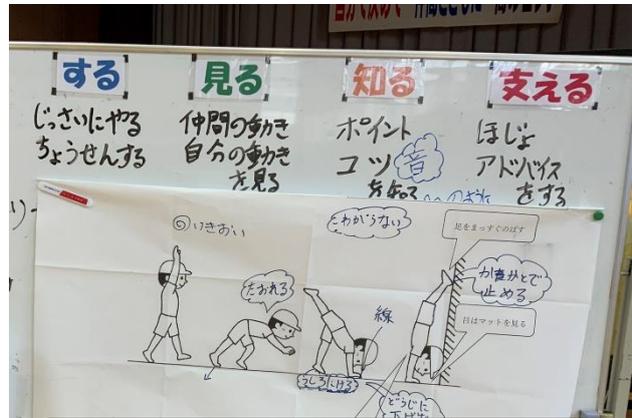
下線：見方・考え方

～Bグループ～

J20：やった。できた。  
 T19：どんなこと意識したらできた？みんなに伝えて。  
 J21：頭の後ろに腕をもってくる感じ。  
 K19：あ一分かったかも。  
 K20：あ、できた。

### (3) 体育の見方・考え方の価値付けについて～掲示物の活用～

単元を通して、体育の見方・考え方を掲示した。また、毎時間、授業の始めに掲示物を基に、技のポイントを共有してきた。このことにより、**グループの練習の際に、掲示物を見て、アドバイスする姿や教えてもらった技のコツを試すことで自分の技のコツを見つけている姿**が見られた。これらの姿を見逃さず価値付けることで、他の単元でも体育の見方・考え方を働かせて問題解決をする姿の表出につながると考える。



掲示した体育の見方・考え方の掲示物

### (4) 成果 (○) と課題 (●)

- グループごとに、教師が、技のコツを具体的にしたり、言語化したりする問い返しを行うことで、技のコツが明確になり、子ども一人一人の技の習得につながる。
- 体育の見方・考え方の掲示物を見て、技のポイントを踏まえ、コツを伝え合う姿を価値付けることが、見方・考え方を働かせて問題解決する姿の表出につながる。

- 教師が、壁倒立の動きの詳細な過程を徹底的に分析し、動きの構造を子どもに易しい言葉で説明したり、アドバイスの視点を明確にしたりしてから取り組ませる必要がある。
- 全体での問い返しの際には、全員が自分の考えをもった状態で行う必要がある。また、体育では、自己の課題が一人一人異なるため、全体に向けた問い返しだけでなく、各グループごとに見取って行うとよいことが見えてきた。